

2024年度（2025年3月期） 第2四半期 決算説明会

（2024/4/1～2024/9/30）

※この資料に記載されている業績予想等の将来に関する予測は、当社経営陣が現時点で入手可能な情報に基づき、判断したものです。
将来に関する予想には様々な潜在的リスクや不確定要素が内在されており、実際の業績は種々の要素によりこれらの将来予想とは異なる場合があります。
従いまして、この資料にある将来に関する予想に全面的に依存して投資等の判断を行うことはお差し控えてください。

2024年度第2四半期実績及び 2024年度通期見通しについて

代表取締役社長 鷹野 準

(ご注意)

- ・前期（2024年3月期）において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2024年3月期上期（中間期）に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

2024年度 第2四半期決算ガイダンス

(単位：百万円)

	2023年度 上期実績	2024年度 上期実績	対前期比
売上高	11,568	9,661	△1,907
営業利益	75	△398	△473
経常利益	172	△381	△553
親会社株主に帰属する 中間(当期)純利益	263	△106	△369
1株当たり配当金	－	－	－

● 上期実績（対前期比）

売上は検査計測機器、産業機器が減収。
営業利益は全社的な固定費抑制活動による挽回を図ったが
減収影響大にて赤字の結果となった。

	2023年度 通期実績	2024年度 通期予想	対前期比
	25,173	24,000	△1,173
	880	420	△460
	1,023	550	△473
	601	550	△51
	20円00銭	20円00銭	－

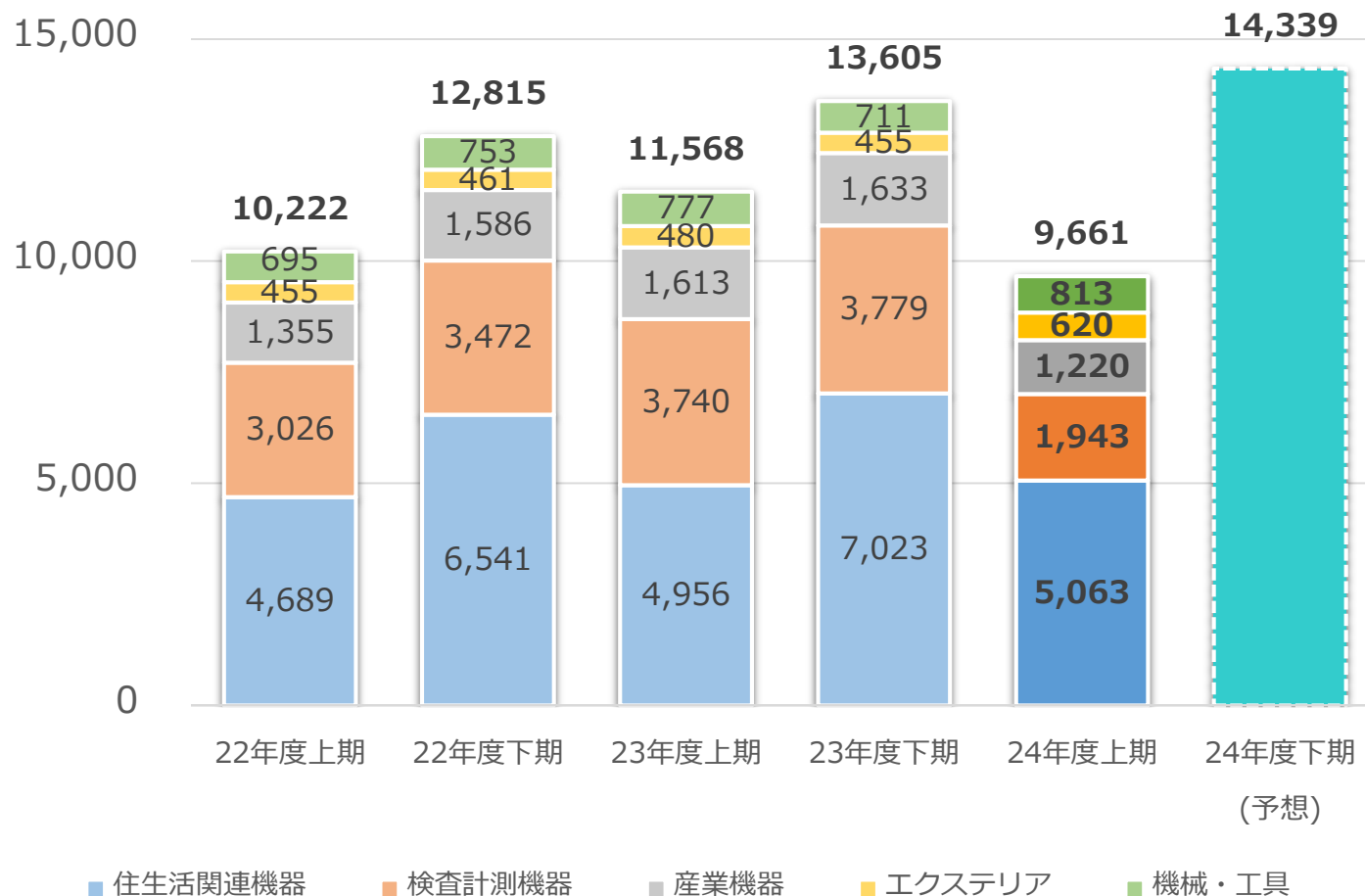
● 通期予想（対前期比）

住生活関連機器は例年とおり下期偏重、検査計測機器も
下期に向けて売上増の計画にて、上期⇒下期の増収効果で
利益創出をする。

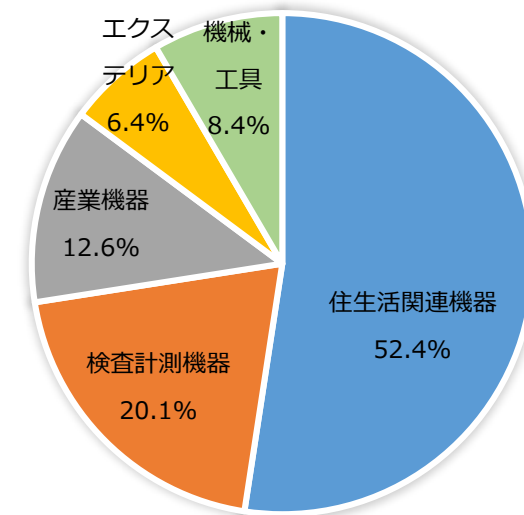
連結セグメント別売上高の推移

セグメント別売上高推移

単位：百万円



2024年度上期 連結売上高構成比



受注・受注残高の状況

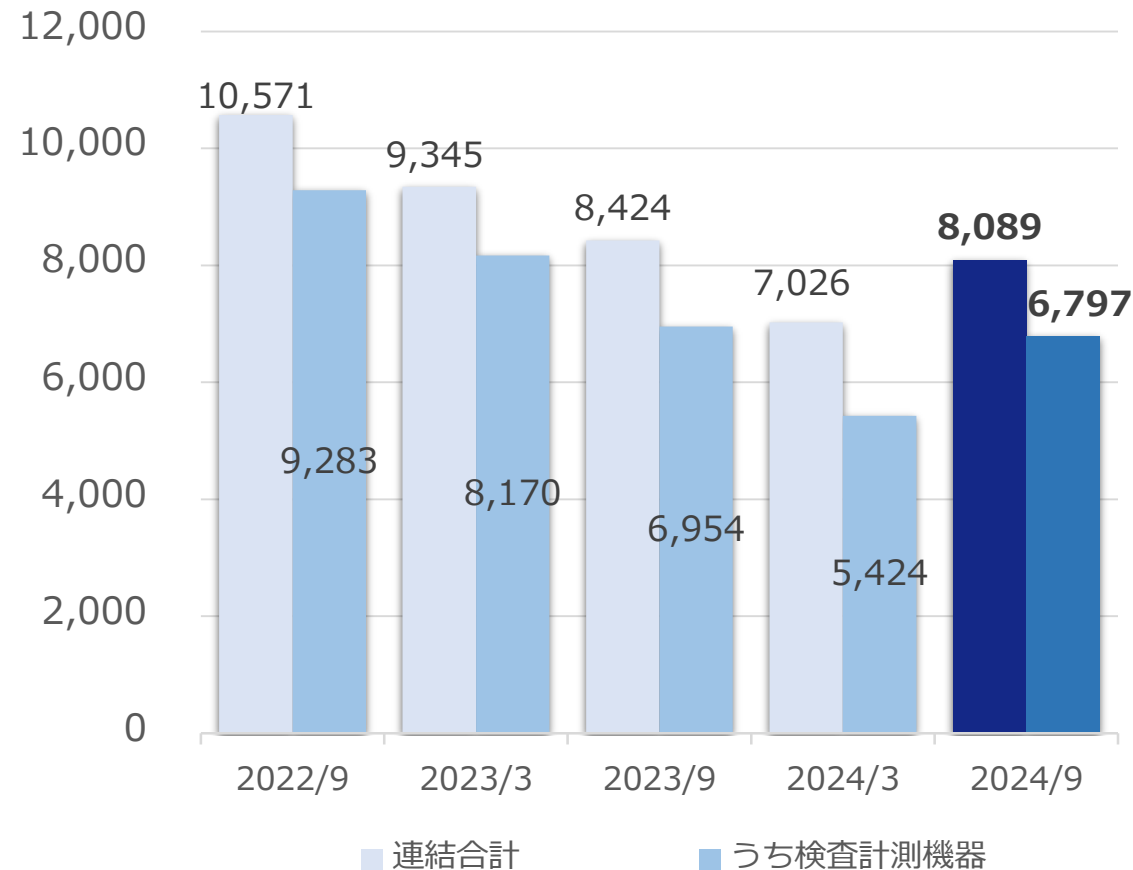
受注高推移（半期ベース）

単位：百万円



受注残高推移(半期ベース)

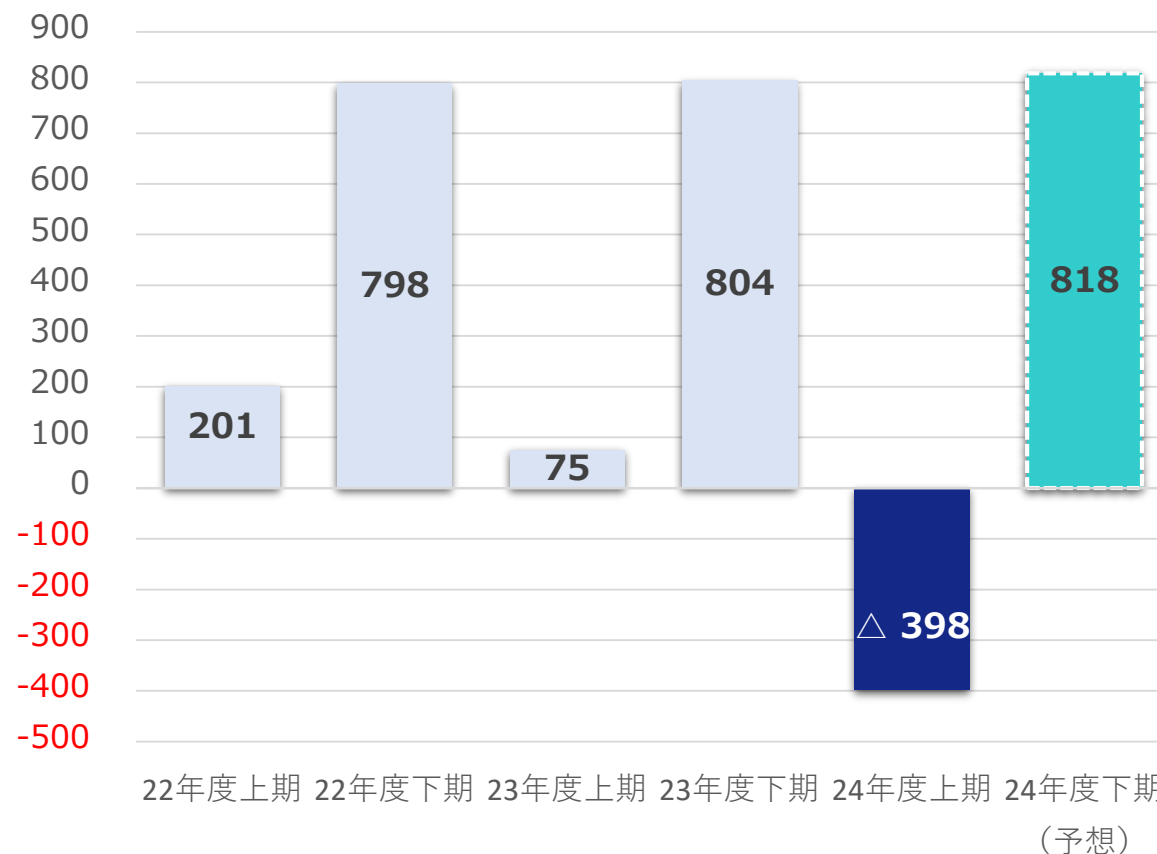
単位：百万円



連結セグメント別利益の推移

単位：百万円

セグメント別利益推移



【連結セグメント別利益 内訳※】

(単位：百万円)

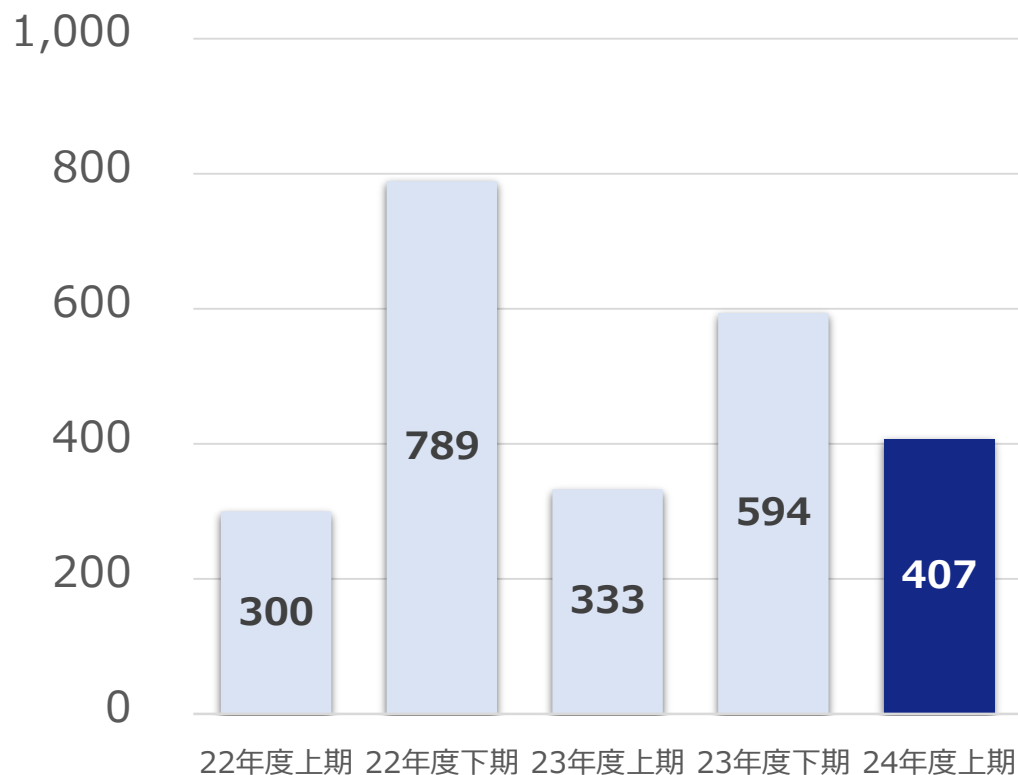
	2022年度		2023年度		2024年度	
	上期実績	下期実績	上期実績	下期実績	上期実績	下期予想
住生活関連機器	△240	95	△299	252	△152	－
検査計測機器	196	344	14	251	△295	－
産業機器	215	289	303	273	△52	－
エクステリア	△0	6	15	△21	59	－
機械・工具	30	62	26	50	53	－
連結調整	△0	△0	16	△1	△11	－
合計(営業利益)	201	798	75	804	△398	818

※前期（2023年度）より報告セグメントの区分を変更しており、
2022年度も当該変更を反映した数値に組替えております。

設備投資の状況

設備投資額推移

単位：百万円



● 2024年度上期の主な設備投資の内容

■ 産業機器

- ・ 複合加工機、NC旋盤等の機械装置

■ 検査計測機器

- ・ 評価用検査計測装置

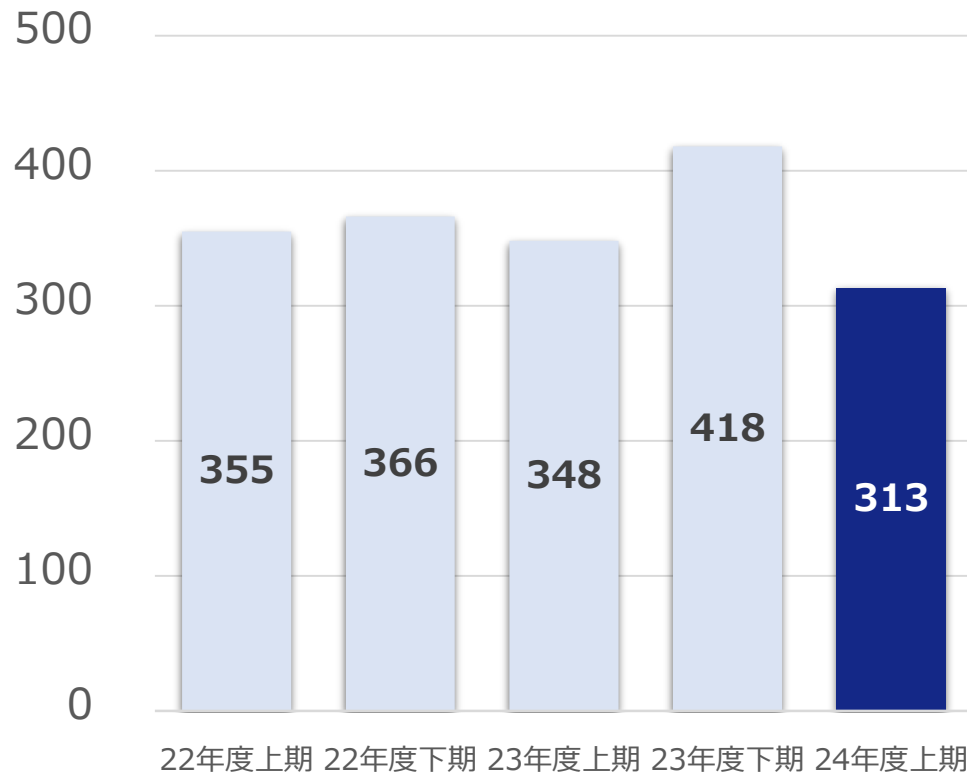
■ 全社（共通）

- ・ 次期基幹システムの構築に係る無形固定資産
- ・ 電子顕微鏡

研究開発の状況

研究開発費推移

単位：百万円



● 2024年度上期の主な研究開発の内容

■ 住生活関連機器

- ・ 環境対応 新素材研究等
- ・ 金属3Dプリンターを活用した開発試作
- ・ 臨床検査薬の使用期限延長のための要素研究

■ 検査計測機器

- ・ 高速・高精度対応の画像処理装置開発
- ・ AIによる欠陥分類研究

■ 新事業開発関係（基礎研究）

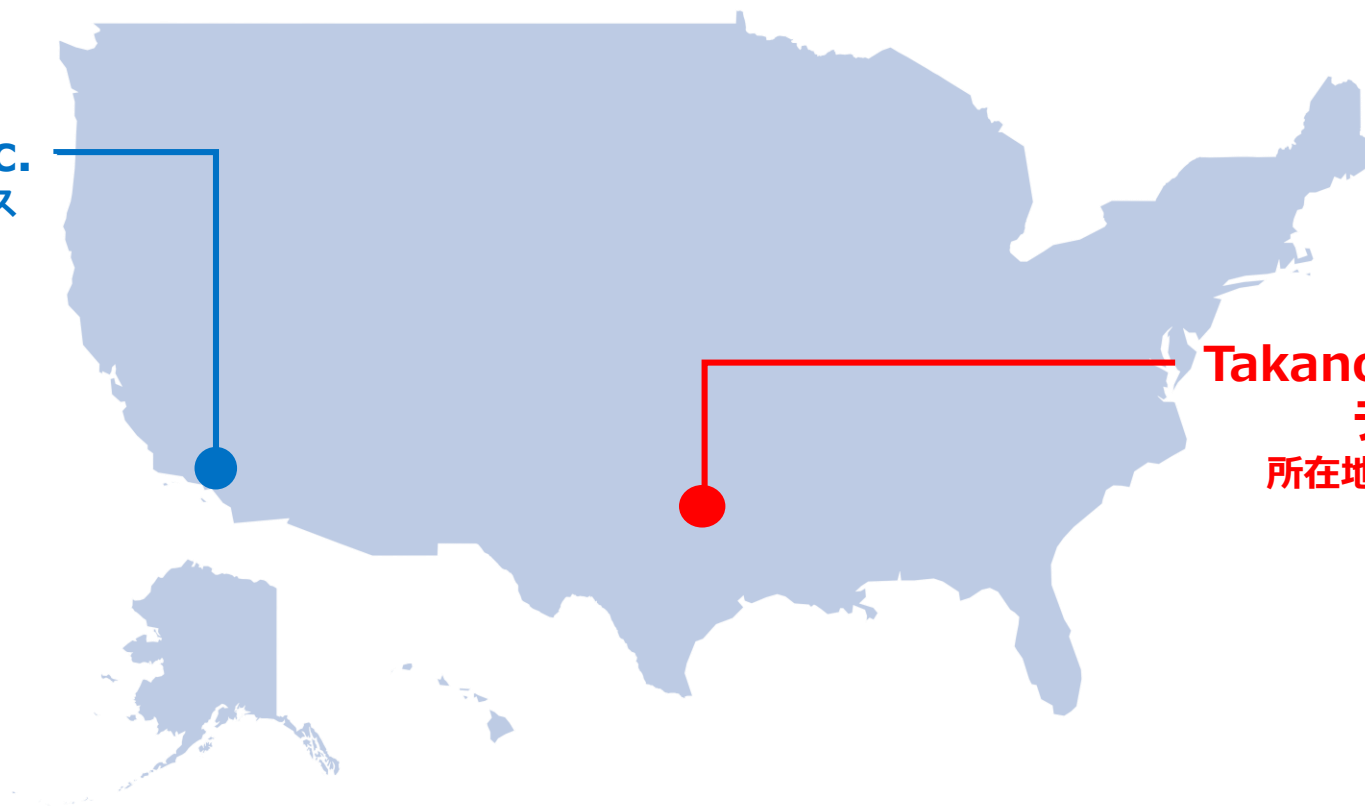
- ・ 医療関連機器開発
- ・ MEMS（微小電気機械システム）デバイス開発

トピックス

連結子会社Takano of America Inc. 米国テキサス州に支社を設立

本年11月、連結子会社Takano of America , Inc.は、テキサス州ダラスにテキサス支社を設立しました。
米国中部から東海岸の取引先へのサービス及びセールス拠点として、今後の拡販を目指してまいります。

Takano of America Inc.
所在地：カリフォルニア州 トーランス



Takano of America Inc.
テキサス支社
所在地：テキサス州 ダラス

Powered By Bing
© Microsoft, TomTom

摂食嚥下造影（VF）用検査イス

コンバーVFX リニューアル



現行製品と比較し、

- ・ホイールベースの改良
- ・頭部の金具写り込み予防
- ・幅の拡張

を行い、より取り回しのよい製品に生まれ変わります。

用途拡大

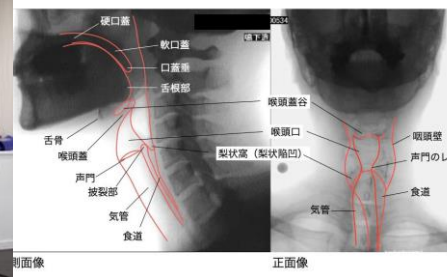
他診療科への展開

透析施設への展開

手術台への移乗
車椅子に座ったまま
レントゲン撮影

本来の使い方

嚥下造影検査（VF）用椅子
リハビリ科、放射線科



食べ物を飲み込む状況をレントゲンで確認しながら、食べるためのリハビリを行う



早期立位訓練

早期リハビリへの展開



口腔ケア
歯科での
嚥下リハビリへの展開

エクステリア部門 オーニング施工実績

ロワジールホテル様 (沖縄県)



プールサイド「日よけ」 (リパーロ 8台)

明治大学様 (東京都, 神奈川県)



運動場用休憩スペース (リパーロE 7台)

J R長野駅ビル MIDORI様 (長野県)



屋上ビアガーデン (リパーロ 16台)

そごう大宮店様 (埼玉県)



屋上ビアガーデン (特注パーゴラ 14台)

2025年3月期 検査計測機器セグメント 業績の内容について

取締役部門長 鷹野 雅央

(ご注意)

本資料は、検査計測機器の業績及び今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものです。

本資料で開示されているデータは、発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものです。本資料で述べられている予測や見通しには、不確実な情報が含まれていることをご承知おきください。

1. セグメント報告
2. タカノ検査計測部門報告
 1. 事業概況
 2. 売上受注計画
 3. 中期事業展開方針

1. セグメント報告

2. タカノ検査計測部門報告

1. 事業概況

2. 売上受注計画

3. 中期事業展開方針

セグメント情報

加工・組立

会社名	沿革	基本情報	事業の内容
タカノ機械株式会社 ※連結子会社 	1979年当社治工具・専用機の設計製造部門を分離独立させ設立	事業人員：約50名 拠点：宮田村	・省力化機械の製造販売 ・検査計測装置のメカ機械等の製作
タカノ株式会社 検査計測部門 	1987年画像処理装置第1号機を完成	事業人員：約250名 国内拠点：全6拠点 ・信州南平工場 ・函館事業所 ・埼玉事業所 ・東京営業所 ・静岡CSセンタ ・大分CSセンタ	半導体や液晶・高機能フィルム用の検査計測装置等の製造販売
台湾鷹野股份有限公司 ※連結子会社 	2005年当社100%子会社として設立	事業人員：約15名 拠点：全2拠点 ・台中本社 ・桃園事務所	台湾におけるFPD・半導体向け画像処理検査装置のメンテナンス、アフターサービス、販売活動

調整・出荷

保守・改造

2025年3月期 第2四半期 セグメント売上高

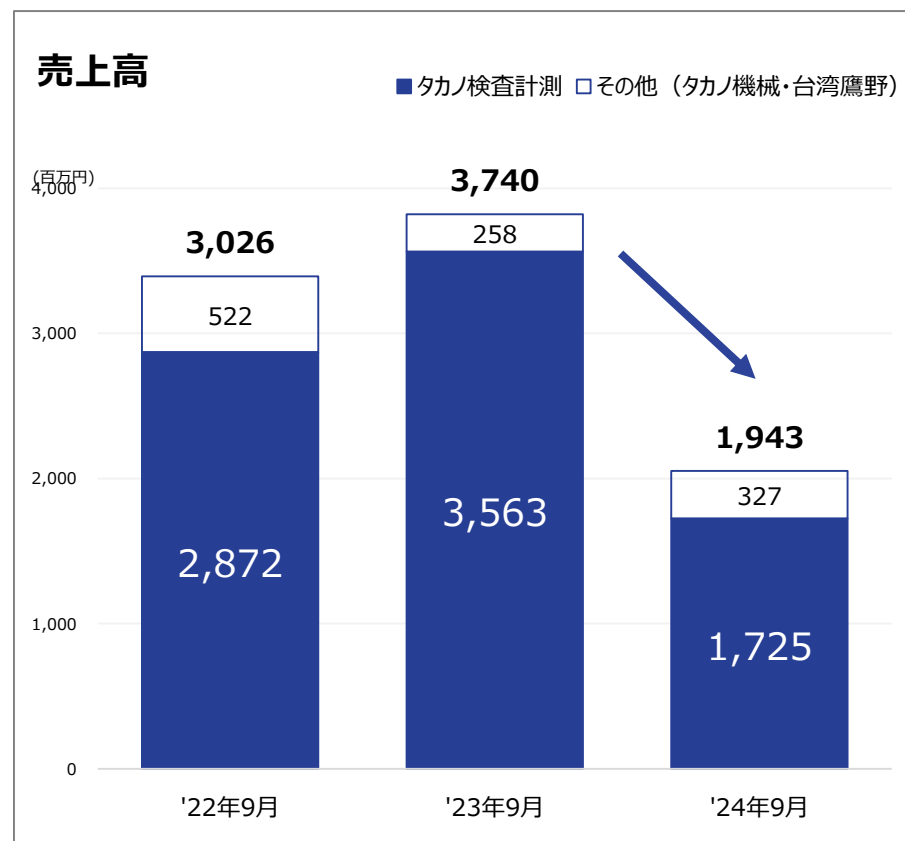
セグメント売上高は大幅減収（当期は下半期に販売が大きく偏重）
半導体向けは堅調もFPD(液晶)向け・Film向け売上高大幅減少による

検査計測機器 売上高 (百万円)

	前期第2四半期 (2023年4-9月)	当期第2四半期 (2024年4-9月)	増減額	増減率 (%)
タカノ検査計測 ※1	3,563	1,725	△1,838	△51.6%
その他 ※1 (タカノ機械・台湾鷹野)	258	327	69	26.9%
調整額	△81	△109	—	—
連結セグメント 売上高 ※2	3,740	1,943	△1,796	△48.0%

※1：タカノ検査計測及びその他の売上高は、セグメント間取引消去前の数値。

※2：連結売上高は、セグメント間取引消去後の数値。



2025年3月期 第2四半期 営業損益

セグメント損益は減益（損失計上）

案件個別収益性改善も大幅な減収による影響により損失計上

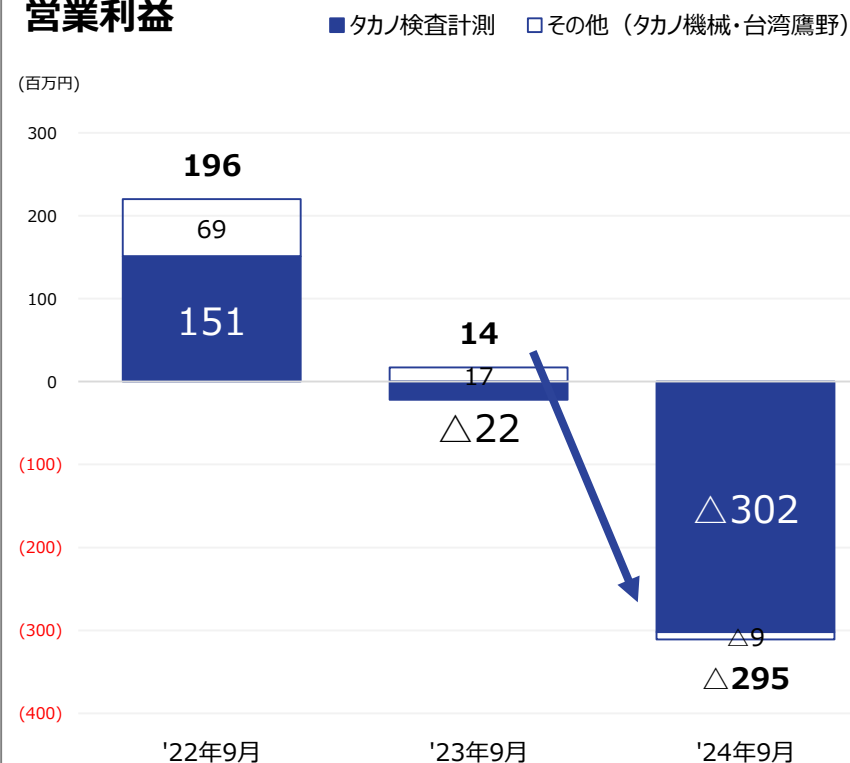
検査計測機器 営業損益（百万円）

	前期第2四半期 (2023年4-9月)	当期第2四半期 (2024年4-9月)	増減額	増減率 (%)
タカノ検査計測 ※1	△22	△302	△280	－%
その他 ※1 (タカノ機械・台湾鷹野)	18	△9	△27	－%
調整額	19	16	—	—
連結営業利益 ※2	14	△295	△309	－%

※1：タカノ検査計測及びその他の営業利益は、セグメント間取引消去前の数値。

※2：セグメント利益は、セグメント間取引消去後の数値。

営業利益



1. セグメント報告

2. タカノ検査計測部門報告

1. 事業概況

2. 売上受注計画

3. 中期事業展開方針

事業紹介

半導体・電子デバイス事業 (以下「半導体事業」という)

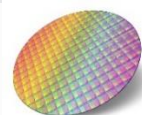
ウエーハの異物や欠陥を高速、高精度に検出できる半導体検査装置

- Vi** — ウエーハの配線パターンやクラック、異物混入などの製品外観を高速、高精度に検査
- WM** — ベアウエーハ表面のパーティクルを高感度に検出
- ALTAX** — ウエーハやBGAなどのパッケージ基板上に形成された bumps の高さ、径、コプラナティを高速かつ高精度に測定

CIS



ウエーハ



WMシリーズ



Viシリーズ



ALTAX



※本資料における「半導体事業」は半導体と電子デバイスの合計を意味する。

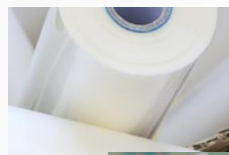
フィルム事業

ラインセンサーを用いた光学式のフィルム検査装置

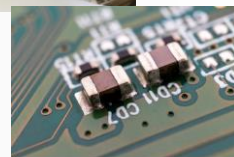
高性能カメラによる高速検査が可能 新規画像処理ユニットを搭載し、高速画像転送とAI欠陥分類により、生産ラインの品質向上を実現する

参入市場：光学フィルム・電子部材・Energy・医療用フィルム

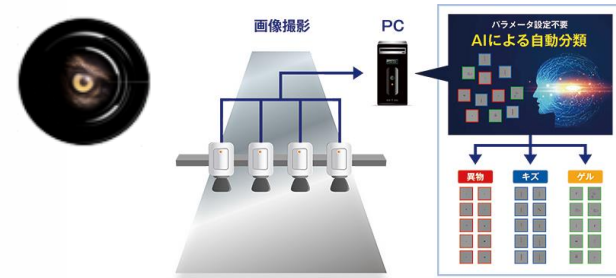
機能性フィルム



電子部材



Hawk eyes (+ TAKANO AI)



FPD事業 (液晶/フラットパネルディスプレイ事業、以下「FPD事業」という)

色ムラ、欠陥等を高精細に検出できる液晶検査装置

テレビやスマートフォン用の液晶パネル製造工程でパターン付き基板の自動検査・欠陥判定をし、量産の品質工程管理を行う装置

参入市場：LCD(液晶ディスプレイ),PDP(プラズマディスプレイ),OLED(有機ELディスプレイ)



高精細外観検査装置
(カラーフィルター等)

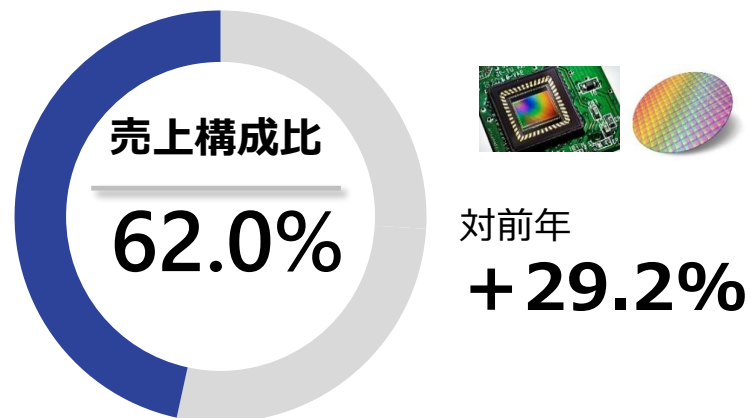


ムラ検査装置



2025年3月期 第2四半期 タカノ検査計測 売上構成

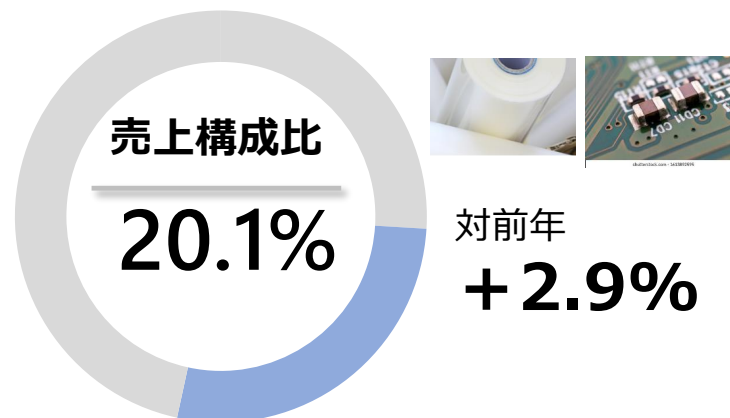
半導体事業



ウェーハの異物や欠陥を高速・高精度に検出できる半導体検査装置を提供



フィルム事業



ラインセンサーを用いた光学式のフィルム検査装置を提供



FPD事業

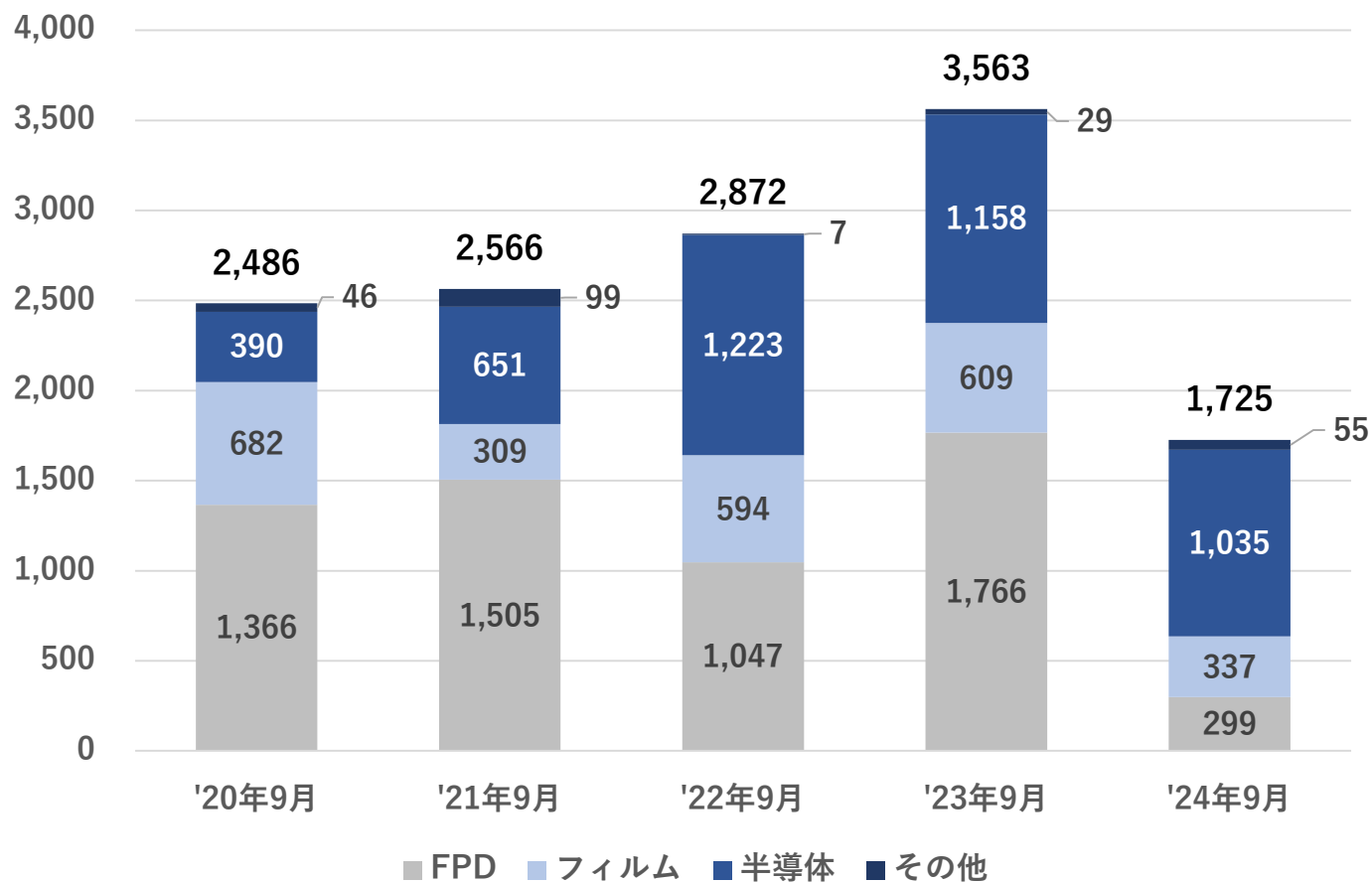


色ムラ、欠陥等を高精細に検出できる液晶検査装置を提供



製品別売上高構成推移（実績：2025年3月期 第2四半期）

2025年3月期第2四半期 製品別売上高 推移（百万円）



【FPD】

- ・当第2四半期には売上計上タイミングを迎える案件が少なかった。

⇒下半期は中国大口物件の売上計上

【フィルム】

- ・前下半期の受注低調（中国バッテリー関連の市況悪化）の影響

⇒下半期に売上計上が偏重

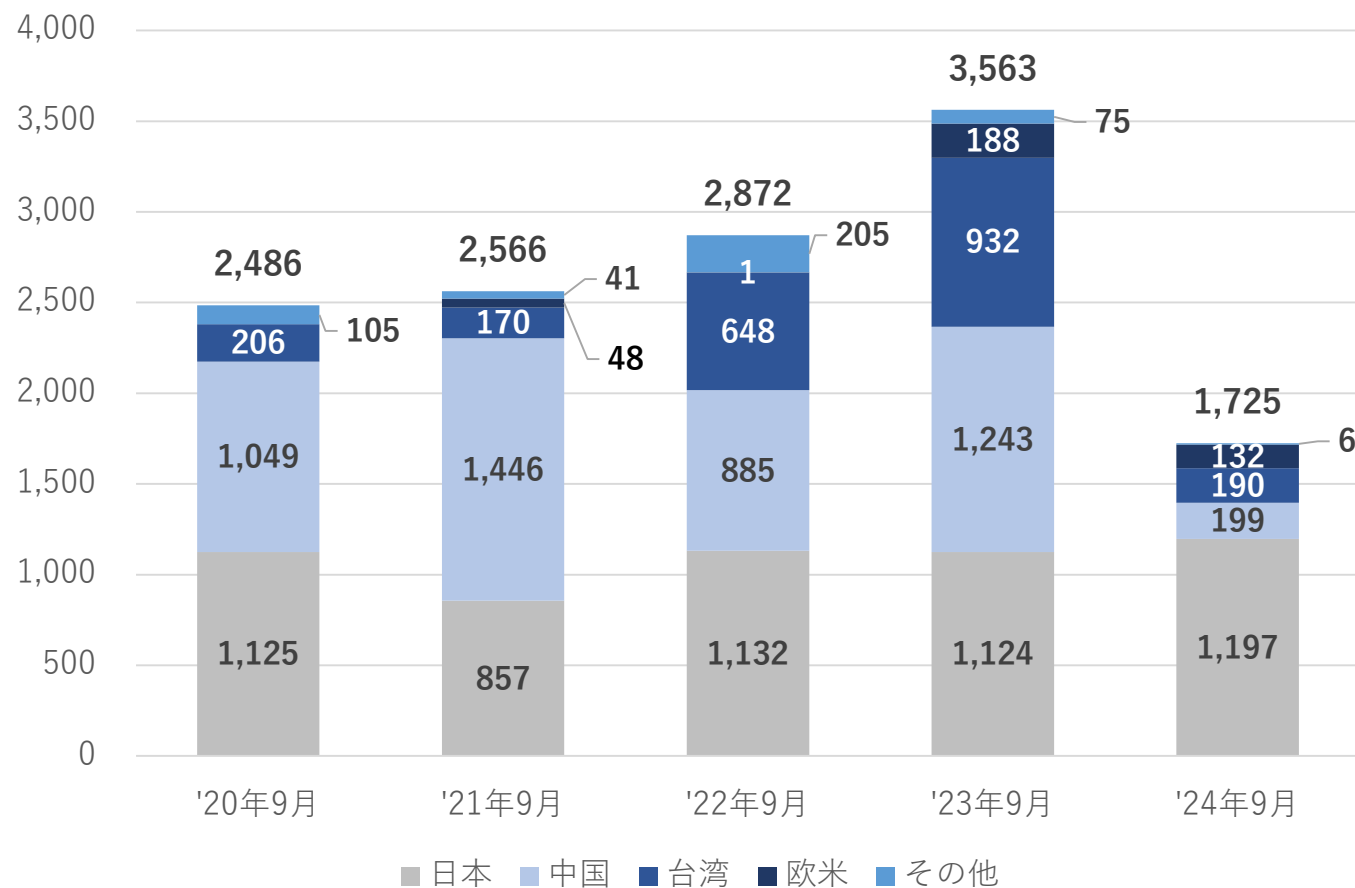
【半導体】

- ・販売は微減も、台湾・中国向け案件の増加

⇒海外向け営業の組織化により販売体制強化。

地域別売上高構成推移（実績：2025年3月期 第2四半期）

2025年3月期第2四半期 地域別売上高 推移（百万円）



【日本】

半導体向けの国内販売は堅調に推移

⇒半導体後工程向け製品販売に注力

【中国・台湾】

FPD向け販売の減少

⇒FPDメンテアフター需要の取り込み

⇒アジア圏へのWMシリーズ販売展開

【欧米】

半導体WMシリーズの販売は順調

⇒代理店と協働し拡販を推進

半導体シフト(構造改革)を継続実行中



- ①会計面 : FPD事業の経費統制とミニマムオペレーション体制の構築継続実行
柔軟なリソース配分実施に向けた製品分野別の採算管理体制整備
- ②組織面 : 2024年10月に組織変更(製品別組織)を実施、
FPD事業(南平工場)から半導体事業への人員シフトを加速
- ③人財面 : 開発体制の強化に向け中途人財の採用推進
- ④設備面 : 顧客向けデモ機の設置(海外含む)、社内開発用機器の設置

1. セグメント報告

2. タカノ検査計測部門報告

1. 事業概況

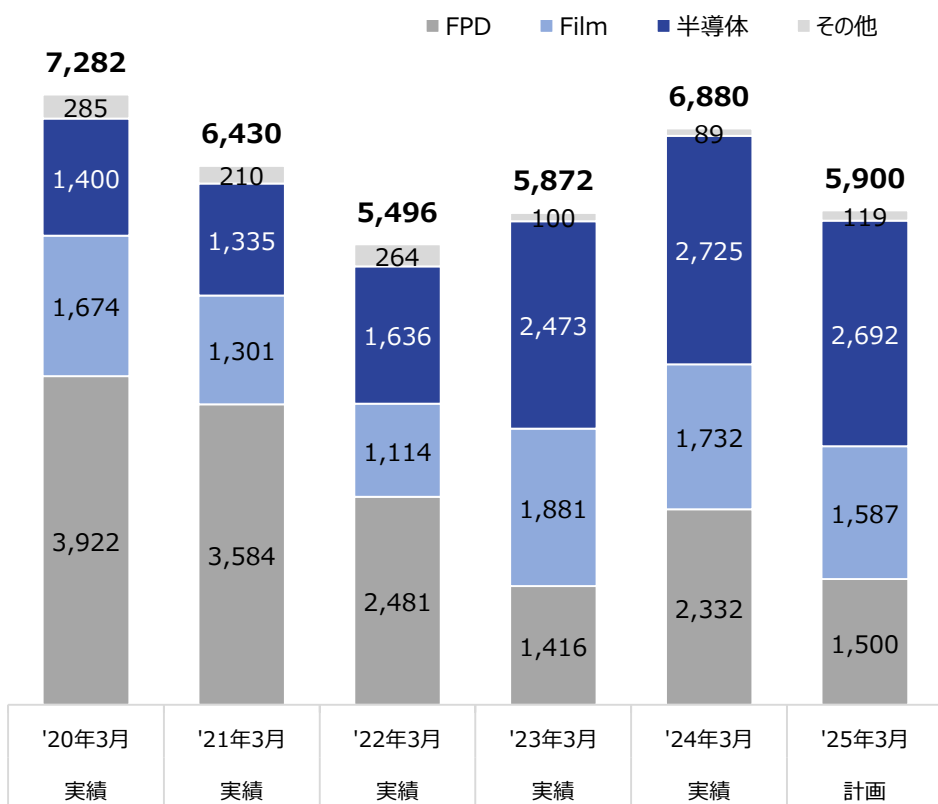
2. 売上受注計画

3. 中期事業展開方針

部門売上計画（計画：2025年3月期）

半導体事業拡大を進める（半導体市況全般は回復傾向、中長期を見据えて推進）

2025年3月期 売上高 推移・計画（百万円）



半導体

- － WMシリーズ次世代製品開発に注力
- － 中間工程・後工程実装高度化（先端パッケージ含む）をターゲットに新製品開発
- － グローバル営業体制強化（欧米・アジア同時展開）
- － 半導体事業へ資源集中振向け（人員・拠点資産）

フィルム

- － 電池部材・電子材料分野をターゲットに
- － ターゲット市場向け標準モデルの開発と拡販

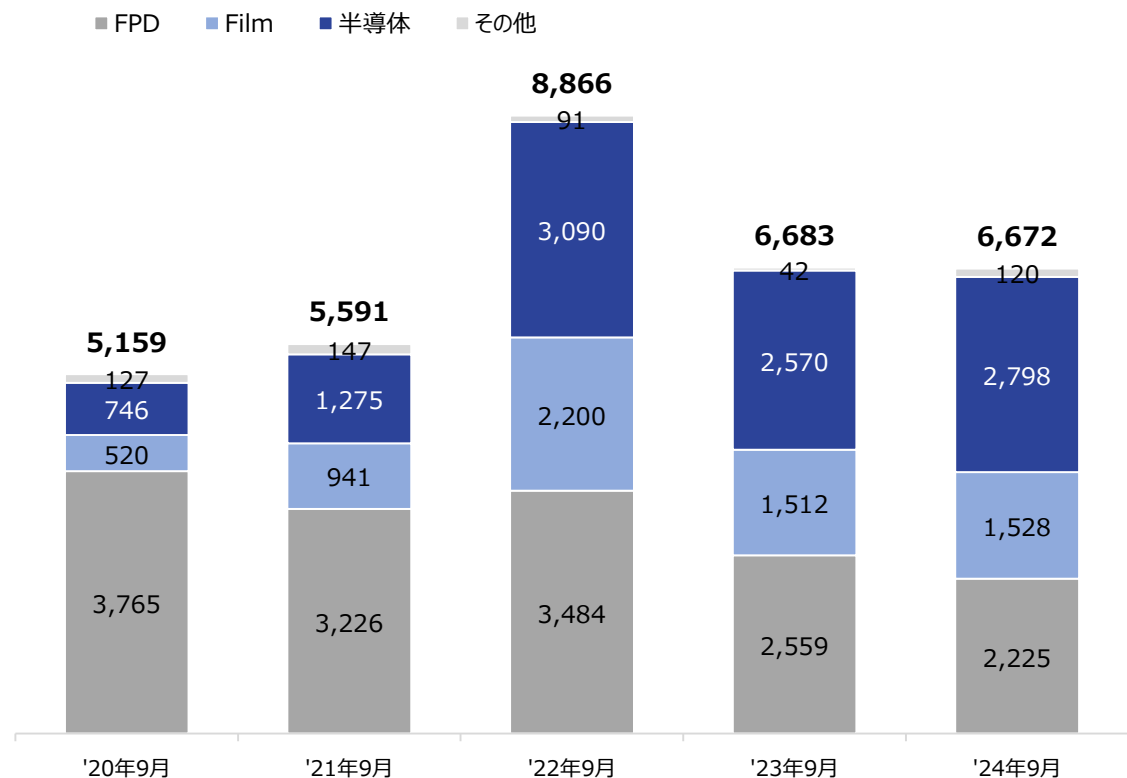
FPD

- － 今後の需要見込みに合わせた効率的事業体制へ
- － 半導体事業への人的資源・資産のシフト
- － メンテ・アフターサービス・改造需要の掘り起こし

部門受注残高（実績：2025年3月期 第2四半期）

過熱気味な先行受注が平常化、足元は厳しいが、積極的な受注活動を継続する

2025年3月期第2四半期 受注残高 推移（百万円）



半導体

- 顧客の設備投資の一服感はあるが、業界全体で技術開発が進み、引き合いはある
- パワー半導体関連(SiCウェーハ関連含む)投資は、足元一服も中長期的には期待

フィルム

- 中国バッテリー関連の市況悪化
- 国内は底堅く、電子部品関連の引き合いは活発

FPD

- 大型の新規装置投資はあまり見込めない状況だが一部大型増産投資案件あり
- 既設ラインの統廃合が進む、移設や改造需要あり

1. セグメント報告

2. タカノ検査計測部門報告

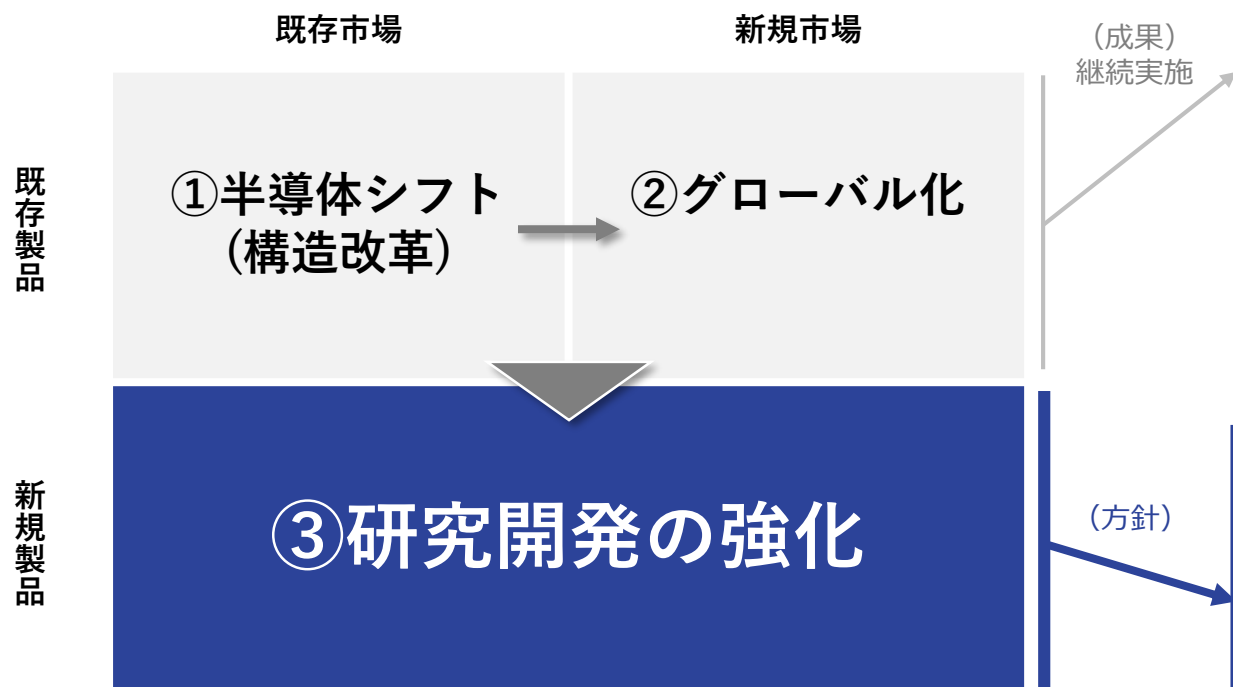
1. 事業概況

2. 売上受注計画

3. 中期事業展開方針

部門戦略

今回中計において研究開発を強化し、
半導体市場における競争/成長力を高める。



前回中計：①半導体シフト(構造改革)

- － FPD市場の成熟化(及び市場縮小)
- － 高収益事業である半導体関連事業へのシフト
- － 成果：半導体関連売上高構成比(FY2024)： **40%**

前回中計：②海外市場売上の拡大

- － 米国代理店との新規契約(半導体事業)
- － 海外展示会への新規出展(米国, 欧州, 東南アジア等)
- － 海外評価デモ環境の整備(台湾など)
- － 成果：海外売上高構成比(WM/FY2023)： **54%**

今回中計：③研究開発の強化

- － 研究開発関連投資を拡大(半導体関連が中心)
- － 海外展示会への新規出展(米国, 欧州, 東南アジア等)
- － FPD事業からの人員シフトで半導体関連開発体制強化

研究開発関連費用： **1.5倍**

市場認識

市況全般は改善の兆し。特に半導体市場に対してはポジティブな認識
(変動はあるが市場拡大を見込む、技術革新が当社製品の需要機会に)

事業	マーケット状況	補足説明
半導体	 曇 → 晴時々雲	● 半導体在庫調整は一巡。全体として回復の兆し ● 半導体市況全体はデータセンター投資等により継続拡大。 ● 3D実装・チップレット等向け、後工程・先端パッケージ向けに投資拡大期待 ● 技術革新が進む → 新しいプロセス、新しい検査ニーズの発生 積極的な研究開発投資の検討及び実施を行う(グローバルな競争に備える)
フィルム	 晴時々雲 → 晴時々雲	● 半導体実装関係部材の投資は底堅い。 ● バッテリー関連は、車載向けに長い目で成長が期待される。 ● 半導体、電子デバイス向け基材メーカー (MLCC等) からの検査ニーズが増加
FPD	 雨 → 雨時々曇り	● 主要顧客の新規大型投資については慎重な状態が続くが、一部顧客において大型増産投資・増設投資は実施される ● 主要顧客の生産性改善投資 (装置改造・メンテナンス) 意欲はある ● 当社納入の既設検査装置の改造需要に機会

開発項目－①WMシリーズ

グローバル市場へのさらなる展開に向け、戦略機開発に注力

WM-7系（～200mmウェハ）新商品開発



- >新システム入れ替え＋新GUI
- > A I によるデータ活用
- >ユーザビリティの向上

WM-10系（300mmウェハ）新商品開発



- >高感度光学系の採用
- >装置完成度の向上

前工程

Keyword

レガシープロセスから
アッパープロセスまで

A I 活用・シミュレーション
でユーザビリティ向上

グローバル市場向け戦略機

中古機の枯渇・価格上昇

開発項目－②ALTAXシリーズ

ハイエンド・パッケージ市場に向け製品を重点開発

ALTAX-300EX（ウェハーマイクロバンプ[°]2D/3D検査）



- >新光学系開発
- >タクトアップ
- >パターン検査技術融合

ALTAX（パッケージ向けバンプ高さ検査）



- >コストダウン改良
- >光学系最適化
- > 2D/3D複合機提案

前～後工程

Keyword

マイクロバンプ[°]
微細接合

ハイブリッド
ボンディング

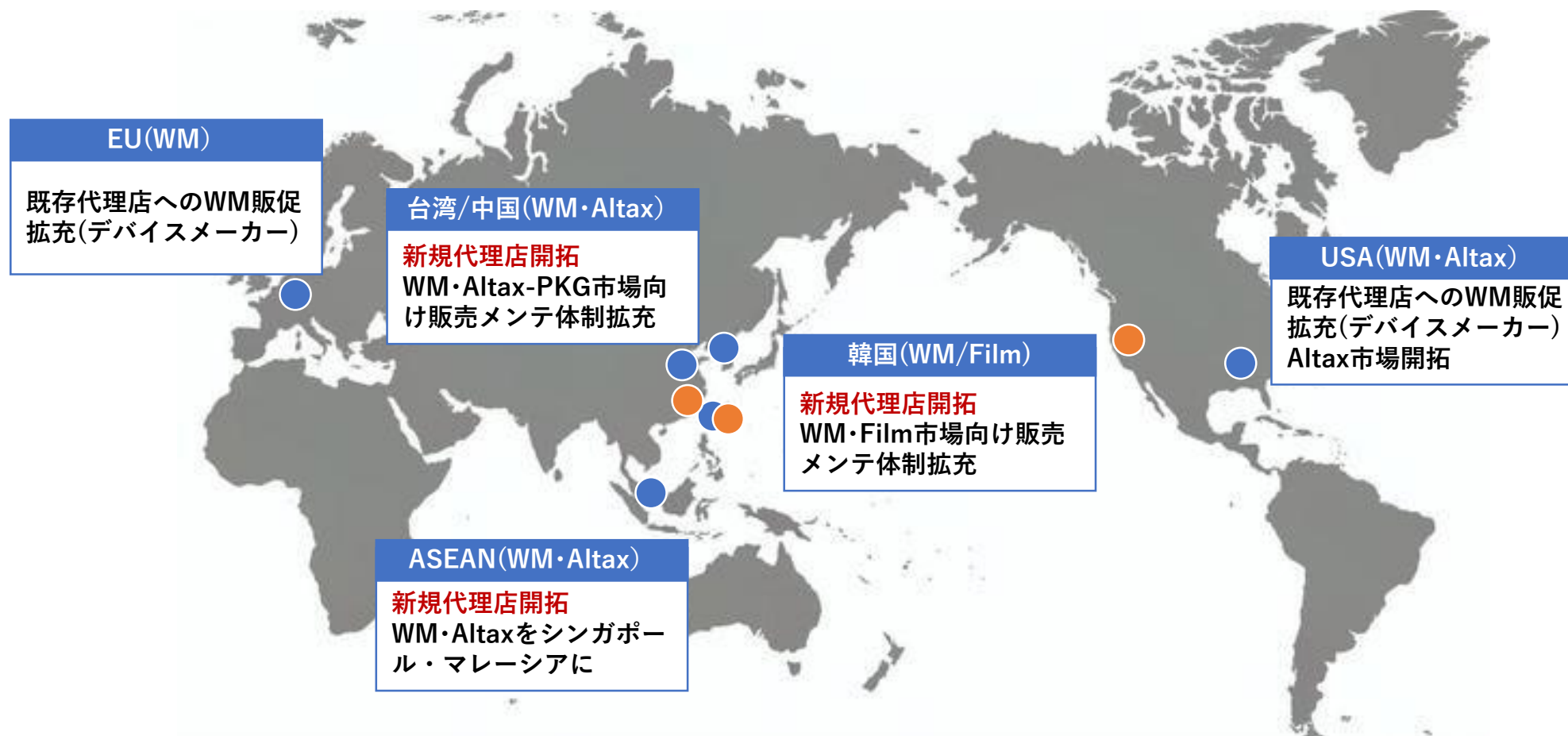
積層パッケージ

ガラスコア
パッケージ

販売拡大施策 ― グローバル営業体制強化

グローバル販売エリア拡大に向け販売・メンテ体制を強化

- 海外子会社
- 販売代理店・メンテ拠点



販売拡大施策 ― グローバル営業体制強化

グローバル販売エリア拡大に向け地域新商材を導入 グローバル営業を統括する新部署の設置

地域	今までの商材				
	FPD	Film	Altax -PKG	WM	V I
台湾	●	●			●
中国	●				
韓国	●	●			
ASEAN (シンガポール・マ レーシア)					
米国・欧州				●	



商材拡大とエリア拡大施策					
FPD	Film	Altax -PKG	WM	V I	エリア拡大施策
●	●	●	●	●	台湾現法新商材販促・立上・メン テ・アフターサービス体制強化 新規代理店拡大
●	●	●	●		上海現法新商材立上・メンテ・ア フターサービス体制強化 新規代理店拡大
●	●		●	●	新商材に関する新規代理店(メンテ 対応)拡充
		●	●		新商材に関する新規代理店(メンテ 対応)拡充
			●		欧米非先端プロセスデバイスメー カーへの販売促進強化

販売拡大施策 ― グローバル営業体制強化

国内外の展示会で新規・潜在顧客へのアプローチを強化中
商社開拓を推進し、海外市場の販路拡大を継続



SEMICON West 2024

(米国サンフランシスコ)

欧米代理店Class Oneブースへ
WMポスターとデモ機出展



SEMICON EUROPA 2024

(ドイツ、ミュンヘン)

欧米代理店Class Oneブースへ
WMポスターとデモ機出展



SEMICON CHINA 2025

(中国 上海)

2025年3月26日～28日予定

タカノ直接出展予定
WM、Viなど

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月



SEMICON Taiwan 2024 (台北)

タカノ直接出展
WM、Vi、ALTAXなど



展示ブースイメージ

SEMICON Japan 2024

(東京ビックサイト)

12月11日～13日

タカノ直接出展
WM、Vi、ALTAXなど

※この資料に記載されている業績予想等の将来に関する予測は、当社経営陣が現時点で入手可能な情報に基づき、判断したものです。

将来に関する予想には様々な潜在的风险や不確定要素が内在されており、実際の業績は種々の要素によりこれらの将来予想とは異なる場合があります。

従いまして、この資料にある将来に関する予想に全面的に依存して投資等の判断を行うことはお差し控えください。

補足資料

当社およびグループ会社の概要について

○：連結子会社、●：連結子会社（孫会社）

会社名	沿革等		事業の内容
※当社 タカノ株式会社	1953年7月 1997年2月	ばね製造会社として設立 東京証券取引所に上場	オフィス家具、ユニット（ばね）製品、エクステリア製品、画像処理検査装置、電磁アクチュエータ、健康福祉関連機器の製造販売
○(株)ニッコー [機械・工具]	1968年3月	グループ内の工具機械等の仕入をする商社機能として設立	工具、器具、機械、エクステリア製品の仕入販売
○タカノ機械(株) [検査計測機器]	1979年9月	当社治工具・専用機の設計製造部門を分離独立させ設立	省力化機械の製造販売 検査計測装置のメカ機械等の製作
○台湾鷹野股份有限公司 [検査計測機器]	2005年2月 2005年4月	当社100%子会社として設立 営業開始	台湾におけるFPD向け画像処理検査装置のメンテナンス、アフターサービス、販売活動
○上海鷹野商貿有限公司 [住生活関連機器]	2010年1月 2013年12月	当社100%子会社として設立 資本金を50万米ドルに増資	オフィス家具他、各種製品の仕入販売（当社各部門の中国市場向けの製品の販売活動等、中国からの部材仕入活動等を行う目的で設立）
○香港鷹野国際有限公司 [産業機器]	2011年8月 2012年4月	当社100%子会社として設立 営業本格開始	産業機器（電磁アクチュエータ）製品、検査計測機器製品およびそれぞれの製品にかかる部品等の仕入・販売（輸出入）
○Takano of America Inc. [産業機器]	2019年8月 2020年4月	当社100%子会社として設立 営業本格開始	産業機器（電磁アクチュエータ）製品の仕入販売
○(株)ユーキ・トレーディング [住生活関連機器]	1989年6月 2023年3月	会社設立 株式を100%取得し連結子会社化	福祉用具・健康用品の輸出入および国内販売
●鷹野電子(深圳)有限公司 [産業機器]	2023年9月 2023年10月	香港鷹野国際有限公司の100%子会社として設立 営業本格開始	産業機器（電磁アクチュエータ）製品および部品等の仕入・販売（輸出入）

経常損益・親会社株主に帰属する当期純損益の推移

経常損益/率

単位：百万円



親会社株主に帰属する当期純損益/率

単位：百万円

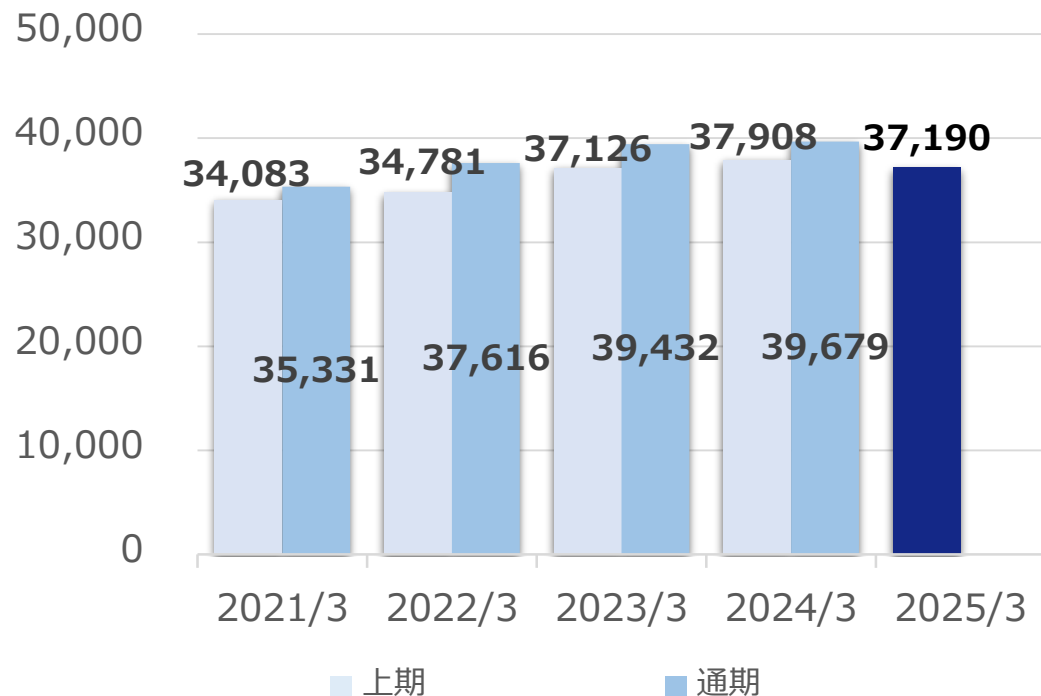


● 2024年度上期の1株当たり中間純利益：△7円02銭

総資産・純資産推移

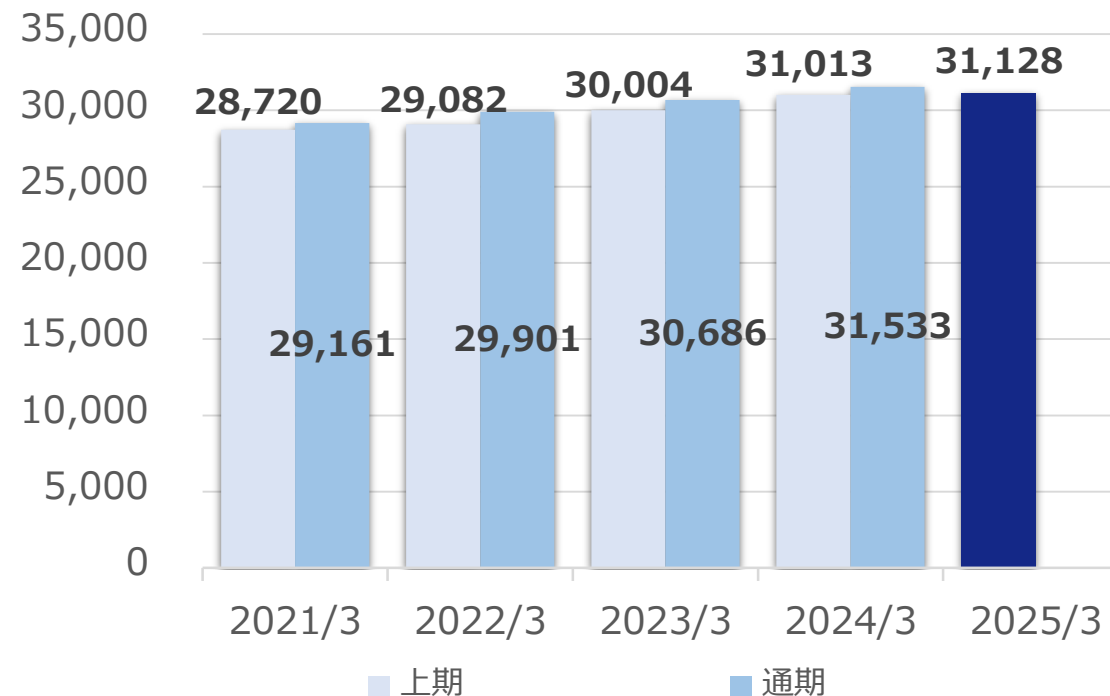
総資産

単位：百万円



純資産

単位：百万円



● 2024年9月末の自己資本比率 83.7%

● 1株当たり純資産 2,045円04銭

2024年度 第2四半期キャッシュ・フロー計算書

	2023年度上期実績 (百万円)	2024年度上期実績 (百万円)	前年比増減 (百万円)
営業活動によるCF	1,924	1,632	△291
投資活動によるCF	252	36	△216
財務活動によるCF	△343	△365	△22
現金等換算差額	67	56	△10
現金等の増減額	1,900	1,359	△540
現金等期首残高	7,641	8,469	827
現金等中間期末残高	9,542	9,829	286